



創立77周年、東北医科薬科大学 として新たなスタート

東北医科薬科大学 理事長・学長 高柳 元明

本学が、昭和14年に、東北・北海道地区唯一の薬学教育機関である東北薬学専門学校として創立されてから、今年の5月で創立77周年を迎えております。そして、その節目の年に、国内37年ぶりの医学部を開設し、大学名も東北医科薬科大学として、新たなスタートをいたしました。ここに至るまでに、地域や各関係機関の皆様から温かいご支援、ご協力を頂きましたことに、改めて深く感謝申し上げます。

東北大学に続き、宮城県で2校目となる本学医学部は、東北地方の医療を支えることを基本に、疲弊した地域医療の復興、発展に貢献することを目指しています。医療過疎や震災による医療崩壊の現状を見据え、地域の声に耳を傾け、その地域のニーズを理解し、疾病の予防から各種疾患の複合状態にも適切に対応できる幅広い臨床能力をもつ総合診療医を養成していきます。質の高い教育カリキュラムに加え、学外施設を利用した地域滞在型の地域医療教育、災害医療教育、薬学の基礎教育を行います。低学年から地域に滞在する機会を設け、地域への愛着と貢献への意欲を育むことが、東北地方の医療を支える源になると考えます。卒業後、医師の東北地方への定着策として、他大学では例を見ない規模の医学生修学基金制度を組み立てることができました。

今回の医学部新設は、37年ぶりの医学部新設とあって、社会的にも大きく取り上げられ注目を浴びた中での開設となりました。地方のみならず、大都市圏での医師不足が叫ばれるなか、3年前の平成25年10月4日、安倍総理が文部科学省に「医学部新設の検討」を指示されました。そして、それを受けて、1週間後の10月11日、本学は医学部新設の構想を、記者会見発表いたしました。その後、文科省への設置申請にいたるまでには、構想審査会、運営協議会を義務づけられ、私学にとっては大変重い、しかも長い道のりとなりました。いくつかの選定条件を付けられた上での文科省への設置申請となり、何から何まで異例づくめの医学部開設であったように思います。このような困難な道のりを乗り越え、無事、医学部一期生100名を迎え入れることができましたのは、皆様の温かいご支援の賜物と考えております。

超少子高齢化の時代にあって、今、社会のあらゆる分野で次の時代をどのように切り開いていくべきか、その困難に直面し努力が重ねられております。本学も例外ではありません。このような時代に、東北医科薬科大学の最初のページを開き、その歴史を刻んでいくことに大きな感動を覚えています。社会の人々が本学に寄せる期待と信頼には、揺るぎのないものがあります。そして今後、その期待に応え、果たすべき役割は、東北地方にとどまることなく、これまで以上に大きくなっていくものと確信しております。私どもは、常に時代の新しい風を肌で感じながら、これからも、地域社会に貢献できる優れた人材の育成に全力で取り組んでまいります。今後ともご支援ご協力をお願い致します。